



表16 国際生活機能分類(ICF)を基にした現状分析表

性別: 男	年齢: 52	地域: 浅井	国籍等: 日本	IDNo.2201
疾病1	疾病2	疾病3	外傷1	平成22年4月21日現在
精神発達遅滞	-	-	外傷2	その他
心身機能・身体構造	精神機能	運動機能	視覚・聴覚	-
	重度知的障害あり 精神的には安定している	問題なし	問題なし	その他
活動	歩行	ADL	家事	その他
	可	食事や排泄等ほぼ自立	家族が行っていた	両親の病氣により数ヶ月前より短期入所と弟の援助で生活している
参加	可	排泄の失敗時、洗髪などは支援が必要	不明	不明
	-	福祉施設等の利用	趣味等	その他
環境因子	過去にも経験なく、おそらく不可	知的通所授産、短期入所	喫茶店へ行く	不明
	利用している福祉用具	あるが利用していない福祉用具	あれば利用したい福祉用具	不明
環境因子	家族の支援	友人との交流・支援	近隣との交流・支援	一戸建て(両親の持ち家)
	父は認知症、母入院中で自宅での生活が困難、兄弟の支援はあり	作業所でのほか利用者との交流	不明	ボランティア等その他の人的交流・支援
社会環境	利用している制度	あるが利用していない制度	利用している公私のサービス	-
	療育A、障害基礎年金2級	(生活費)実現したい生活	知的通所授産、短期入所	あったら利用したい制度・サービス
個人因子	通いなれた施設に通って生活したい	通いなれた施設に通って生活したい	独自の生活習慣等	通いなれた施設に通いながら利用できる居住の場
	本人	家族	不明	その他の特記事項
会議参加者	参加	私的關係者	医療関係者	-
	本人	家族	医療関係者	福祉関係者
会議の検討事項・結果	会議開催の理由・背景	会議開催による改善点及び残された課題と展望	知的通所授産、短期入所、相談支援(4)、福祉課	知的通所授産、短期入所、相談支援(4)、福祉課
	両親と3人で生活し、知的通所に通い安定した生活を送ってきたが、両親の高齢化、病氣により、家庭での生活が困難になった。通所施設のある法人で短期入所を利用して生活している。今後も通所したいとの希望をもとに、居住の場を検討	会議開催の理由・背景	会議開催による改善点及び残された課題と展望	知的通所授産、短期入所、相談支援(4)、福祉課



表18 国際生活機能分類(ICF)を基にした現状分析表

性別: 女		年齢: 3	地域: 木曽川	国籍等: 日本	IDNo.2203	平成22年4月27日現在
障害 水準	疾病1	疾病2	疾病3	外傷1	外傷2	その他
	脳性まひ	そくわん症	難治性てんかん	股関節脱臼	不明	てんかん発作が頻回
生活機能	心身機能・身体構造	精神機能	運動機能	視覚・聴覚	その他	その他
	活動	最重度知的障害あり	不明	不明	吸引、酸素、経換栄養	不明
参加	実行状況(している)	歩行	ADL	家事	職業能力	その他
	能力(できる)	不可	全身の筋硬直が高い	児童のため本人は行っていない	幼児のため未獲得	不明
環境因子	実行状況(している)	一般就労・就学	福祉施設等の利用	趣味等	地域活動	その他
	能力(できる)	未就学	なし	不明	不明	不明
背景因子	物的環境	利用している福祉用具	あるが利用していない福祉用具	あれば利用したい福祉用具	住居の状況	その他の特筆すべき物的環境
	人的環境	警官栄養、在宅酸素	不明	不明	持ち家	不明
会議参加者	社会的環境	家族の支援	友人との交流・支援	近隣との交流・支援	関係者との交流・支援	ボランティア等その他の人的交流・支援
	個人因子	母親がほほ付き切りで介護	母子通園施設に1回登園	不明	不明	不明
会議の検討事項・結果	参加状況	利用している制度	あるが利用していない制度	利用している公私のサービス	あるが利用していない公私のサービス	あったら利用したい制度・サービス
	本人	身体1級、療育A	不明	訪問看護、訪問リハビリ、母子通園施設	短期入所、児童デイサービス(体調が不安定)	不明
会議の検討事項・結果	本人	(生活観)実現したい生活	(価値観)大事にしていること	独自の生活習慣等	未解決の生活上の問題	その他の特記事項
	本人	不明	不明	不明	退院して1週間もせず再入院する。医療依存度が高い	不明
会議の検討事項・結果	参加状況	家族	私的関係者	医療関係者	保健関係者	福祉関係者
	本人	母親	-	訪問看護、訪問リハビリ、病院SW	保健センター	母子通園施設、相談支援(4)、福祉課
会議開催の理由・背景						
本人を含めた3人の育児・介護について母の心理的・身体的な負担が大きい。本人は医療ケアが必須の状態。福祉サービスの利用の可否を含め医療サービスと組み合わせて、母の負担軽減を目的に支援ができないか検討したい。 会議開催による改善点及び残された課題と展望						
母親と早期のショートステイの利用は難しい状況であることを確認し、今後はヘルパーなどによる家庭内での支援の拡充と児童デイサービスの利用を目標に、本児の体調の安定を待つこととなった。						

表19 国際生活機能分類(ICF)を基にした現状分析表

性別: 男	年齢: 17	地域: 丹陽	国籍等: 日本	平成22年4月27日現在	IDNo.2204
疾病1	疾病2	疾病3	外傷1	外傷2	その他
精神発達遅滞	ADHD疑	-	-	-	家庭内で問題行動があり現在精神科に入院中
心身機能・身体構造	精神機能	運動機能	視覚・聴覚	その他	その他
	幼少期の虐待の影響あり。軽度知的障害あり	問題なし	問題なし	-	-
活動	歩行	ADL	家事	職業能力	その他
実行状況(している)	可	自立	母が行う	中学卒業後は職業訓練校に通ったが退学	入院中はソフトボールを楽しんでいる
能力(できる)	可	自立	お手伝い等は可能	作業等は可能	身体を動かすことが好き
参加	一般就労・就学	福祉施設等の利用	趣味等	地域活動	その他
実行状況(している)	-	-	テレビゲーム	不明	友人らと万引きするなど非行行為あり
能力(できる)	支援を受ければ可能	就労系サービスの利用は可能	じっとしていることが嫌い	不明	自発的にというよりは友人らの影響あり
物的環境	利用している福祉用具	あるが利用していない福祉用具	あれば利用したい福祉用具	住居の状況	その他の特筆すべき物的環境
環境因子	家族の支援	友人との交流・支援	-	集合住宅(賃貸)	-
人的環境	義父、母、弟、妹(乳児)と同居、家族関係が不安定	悪友との交流あり	近隣との交流・支援	関係者との交流・支援	ボランティア等その他の人的交流・支援
社会環境	利用している制度	あるが利用していない制度	不明	人あたりよく、良好な関係を築くこと可能	-
個人因子	療育C	療育C	精神科病院に入院中	あるが利用していない公私のサービス	あったら利用したい制度・サービス
本人	(生活観)実現したい生活	(生活観)大事にしていること	独自の生活習慣等	就労支援	-
参加状況	仕事をして収入を得たい	不明	幼児が好きでつまみとってしまふことがある	未解決の生活上の問題	その他の特記事項
本人	家族	私的関係者	医療関係者	保健関係者	福祉関係者
参加(後半)	母、妹	-	精神科医師、PSW	-	就労移行支援、就労・生活支援センター、相談支援、児童相談センター、相談支援、福祉課
会議参加者	会議開催の理由・背景	会議開催による改善点及び残された課題と展望	会議開催による改善点及び残された課題と展望	会議開催による改善点及び残された課題と展望	会議開催による改善点及び残された課題と展望
会議の検討事項・結果	家庭内で弟や妹への暴力があり、精神科に一時入院となった。家庭内の問題解決の方法や退院後の支援内容を検討し、本人の希望する生活が実現できるように支援方法を検討する	就労については就業生活支援センターの支援を導入し、一般就労と福祉的就労の両方を検討。家庭内の暴力等の問題については、専門機関につなげ問題解決を図っていく。交友関係に	就労については就業生活支援センターの支援を導入し、一般就労と福祉的就労の両方を検討。家庭内の暴力等の問題については、専門機関につなげ問題解決を図っていく。交友関係に	就労については就業生活支援センターの支援を導入し、一般就労と福祉的就労の両方を検討。家庭内の暴力等の問題については、専門機関につなげ問題解決を図っていく。交友関係に	就労については就業生活支援センターの支援を導入し、一般就労と福祉的就労の両方を検討。家庭内の暴力等の問題については、専門機関につなげ問題解決を図っていく。交友関係に

表20 国際生活機能分類(ICF)を基にした現状分析表

性別: 男		年齢: 17	地域: 西成	国籍等: 日本	IDNo.2205	平成22年5月19日現在
健康状態	疾病1	疾病2	疾病3	外傷1	外傷2	その他
生活機能	精神発達遅滞	-	-	-	-	-
活動	心身機能・身体構造	精神機能 中度知的障害あり、判断能力に遅れがある	運動機能	視覚・聴覚	その他	その他
	実行状況(している)	歩行	ADL	家事	職業能力	その他
参加	能力(できる)	可	自立	児童施設入所中、洗濯や掃除等を行う	養護学校高等部3年生、一般就労に向け実習中	-
	実行状況(している)	一般就労・就学	福祉施設等の利用	趣味等	地域活動	-
環境因子	能力(できる)	養護学校高等部3年生	児童養護施設入所	サッカー	不明	-
	物的環境	利用している福祉用具	あるが利用していない福祉用具	あれば利用したい福祉用具	住居の状況	その他の特筆すべき物的環境
背景因子	人的環境	家族の支援 父DVあり(実際は不明)、母知的障害疑い、もやもや痛あり	友人との交流・支援	近隣との交流・支援	関係者との交流・支援	ポランティア等その他の人的交流・支援
	社会環境	療育C、児童養護施設	利用している制度	不明	先生や施設職員等との関係は良好	不明
会議参加者	個人因子	(生活観)実現したい生活 就職してグループホームで生活したい	あるが利用していない制度	利用している公私のサービス	あるが利用していない公私のサービス	あったら利用したい制度・サービス
	本人	家族	私的関係者	医療関係者	保健関係者	福祉関係者
会議の検討事項・結果	会議開催の理由・背景 会議開催による改善点及び残された課題と展望 養護学校卒業に伴い児童養護施設も退所となるが、家庭基盤が不安定で自宅で両親との生活は困難もあり。進路を考えたうえでどのような支援が必要となるか検討。					

表21 国際生活機能分類(ICF)を基にした現状分析表

性別: 男		年齢: 27	地域: 西成	国籍等: 日本	ID No. 2206
疾病1		疾病2	疾病3	外傷1	外傷2
精神発達遅滞	自閉症				精神科通院
心身機能・身体構造	精神機能 重度知的障害あり	運動機能 問題なし	視覚・聴覚 問題なし	その他	その他
活動	歩行	ADL	家事	職業能力	その他
生活機能	可	ほぼ自立	母、ヘルパーが行う	通所更生施設で作業を行っている	落ち着きなく絶えず動いている
	可	入浴は母の制限がありしていないが可能	不明、支援があればできることもあると思われる	簡単な作業等、支援があれば可能	指示・誘導で安定する
参加	一般就労・就学	福祉施設等の利用	趣味等	地域活動	その他
	不可	知的通所更生施設、短期入所	不明		
	利用している福祉用具	利用は安定して可能	不明	経験なく不可	
物的環境		あるが利用していない福祉用具	あれば利用したい福祉用具	住居の状況	その他の特筆すべき物的環境
人的環境	家族の支援	友人との交流・支援	近隣との交流・支援	一戸建て(持ち家)	
社会環境	療育A、障害基礎年金1級	通所施設での交流等	通所施設での交流・支援	関係者との交流・支援	ポランティア等その他の人的交流・支援
環境因子	利用している制度	あるが利用していない制度	知的通所更生施設、短期入所、移動支援、福祉有償運送	通所先職員や相談支援等の交流	
	(生活観)実現したい生活	(価値観)大事にしていること	独自の生活習慣等	あるが利用していない公私のサービス	あつたら利用したい制度・サービス
個人因子	不明	変化のない生活パターン	手指のガゼ交換	未解決の生活上の問題	その他の特記事項
参加状況	本人	私的関係者	医療関係者	作業所通所に多額な実費負担	
会議参加者		義理の祖母		保健所関係者	福祉関係者
会議の 検討事 項・結 果	会議開催の理由・背景		会議開催による改善点及び残された課題と展望		
不安神経症にて自宅で一人で行えない等の状況にある母親(精神3級)と2人暮らし。短期入所を利用するも定員の都合で帰宅。母親側に施設への不満があり再入所が延期になっているがパニック症状時や母親の痩せがひどく体力的にも介護をしながらの現在の暮らしを維持していくことは困難であり、今後の生活について対策を検討する					
母の伯母が同居するようになり、1年余り前と同様の生活が戻っている。母の伯母が居ることにより母のパニック発作の心配は軽減し居宅支援サービスも減量した。以前に変わらないう同居による不満はあつたものの、それを利用事業所等に表現しつつ日々は過ごさることができている。経済状況は厳しいものがあるが、母親の管理で何とか暮らせている。					

表22 国際生活機能分類(ICF)を基にした現状分析表

性別: 女		年齢: 15	地域: 大和	国籍等: 日本	平成22年6月16日現在	IDNo.2207
健康状態	疾病1	疾病2	疾病3	外傷1	外傷2	その他
精神発達遅滞				両示、小指関節欠損		
心身機能・身体構造	精神機能 軽度の障害、児童でも あり判断能力は十分では ない	運動機能	視覚・聴覚	その他		その他
活動	歩行	ADL	家事	職業能力		その他
生活機能	可	自立	祖母が行い、祖母にはへ ルパー支援あり	学生のため不明		
	可	自立	お手伝い程度は可能	支援があれば可能		
参加	一般就労・就学	福祉施設等の利用	趣味等	地域活動		その他
	養護学校高等部1年生		不明	隣人男性が親代わりの交 流		本人活動「なごみの会」に 参加
環境因子	安定して通学できる	好まない	支援があれば可	本人は慕っている		誘われると参加
	利用している福祉用具	あるが利用していない福祉用具	あれば利用したい福祉用具	住居の状況		その他の特筆すべき物的環境
物的環境				古い長屋		両親不在で年齢に合う物 的環境を準備する人がいない
人的環境	家族の支援	友人との交流・支援	近隣との交流・支援	関係者との交流・支援		ボランティア等その他の人的交流・支援
	幼少期に両親は家出、認知 症傾向のある祖母と2人暮らし	学校等では特に親しい友 人はいない様子	隣人男性が親代わりのよ うな役割	学校や相談支援などの関 係者あり		
社会環境	利用している制度	あるが利用していない制度	利用している公私のサービス	あるが利用していない公私のサービス		あったら利用したい制度・サービス
	療育C、身体5級、生活保 護					
個人因子	(生活観)実現したい生活	(価値観)大事にしていること	独自の生活習慣等	未解決の生活上の問題		その他の特記事項
	施設には入りたくない	隣人宅との関わり	おおよそ隣人宅で過ごす	祖母亡き後の権利擁護		未成年後見の検討が必要
会議参加者	本人	私的関係者	医療関係者	保健関係者		福祉関係者
参加状況						養護学校、児童相談センター、包 括支援センター、居宅介護、相談 支援、青年福祉課、生活福祉課、 福祉課
会議の 検討事 項・結 果	会議開催の理由・背景					
	さまざまな機関から支援者が関わるようになり、本児及び隣人にもストレスになって いたり、他人の言動に過敏になっている様子もある。この点については隣人の方の 話し合いが難しい					





表24 国際生活機能分類(ICF)を基にした現状分析表

性別: 男		年齢: 11	地域: 浅井	国籍等: 日本	平成22年6月18日現在	IDNo.2209
健康状態	疾病1	疾病2	疾病3	外傷1	外傷2	その他
	精神発達遅滞	自閉症	-	-	-	-
生活機能	心身機能・身体構造	精神機能	運動機能	視覚・聴覚	その他	その他
		最重度知的障害あり、こだわり行動がある	問題なし	特定の音を嫌う	特定の人の匂いを好む	睡眠障害あり
活動	実行状況(している)	歩行	ADL	家事	職業能力	その他
	能力(できる)	可能だが見守りが必要	生活全般に介助が必要	祖母、母親がおこなう	児童のためなし	-
参加	実行状況(している)	一般就労・就学	福祉施設等の利用	趣味等	児童のためなし	-
	能力(できる)	養護学校小学部6年生	放課後、休日に児童デイ、日中一時、行動援護利用	ドライブ	地域活動	その他
環境因子	物的環境	利用している福祉用具	あるが利用していない福祉用具	あれば利用したい福祉用具	住居の状況	その他の特筆すべき物的環境
	人的環境	家族の支援	友人との交流・支援	近隣との交流・支援	関係者との交流・支援	ボランティア等その他の人的交流・支援
社会環境	療育A	母子家庭で兄が精神的に不安定	学校、児童デイでの交流あり	隣人との折り合いが悪い	本人の支援者との関係は良好	母親の友だちの支援
	個人因子	利用している制度	あるが利用していない制度	利用している公私のサービス	あるが利用していない公私のサービス	あったら利用したい制度・サービス
会議参加者	本人	療育A	療育A	児童デイ、日中一時、行動援護利用	未解決の生活上の問題	その他の特記事項
	家族	安定した生活	(生活観)実現したい生活	独自の生活習慣等	自宅で全裸で過ごすこと	福祉関係者
会議の検討事項	本人	安定した生活	安定した生活	自宅で常態に全裸で過ごす	保健関係者	福祉関係者
	母	母	母	医療関係者	-	養護学校、児童デイサービス事務所、日中一時支援事業所、居宅介護事業所、療育サポートボランティア
会議の結果	<p>昨年12月におこなわれた個別支援会議後より、様々な機関が彼を支援することにより、彼の人柄を示す情報が多数集まりました。今回はこの情報を整理することにより、彼が表現をしている様々な問題に対しての困り感の背景を探り、その中から今後のより意味深い支援を提供していける手がかりを探っていく。</p> <p>会議開催による改善点及び残された課題と展望</p> <p>CARSを用いることにより、客観的に本人の障害特性を知ることができた。また、母親への継続的な相談をおこなっていく中で、母親自身が精神的に安定し、それに伴って彼も家庭生活が安定してきている。</p>					

表25 国際生活機能分類(ICF)を基にした現状分析表

性別: 男		年齢: 17	地域: 丹陽	国籍等: 日本	IDNo.2210	平成22年6月30日現在
疾病1	疾病2	疾病3	外傷1	外傷2	その他	その他
精神発達遅滞	-	-	-	-	-	-
心身機能・身体構造	精神機能	運動機能	視覚・聴覚	その他	その他	その他
中度知的障害	問題なし	問題なし	視力に左右ばらつきあるが問題なし	-	-	-
歩行	歩行	歩行	家事	職業能力	その他	その他
可	可	可	ほぼ自立	施設入所中で、掃除や洗濯等を行う	一般就労指し学校で実習を受けている	-
可	可	可	保清など不十分	十分には出来ないため支援が必要	細かい作業は苦手	-
養護学校高等部3年生	一般就労・就学	福祉施設等の利用	趣味等	地域活動	その他	その他
養護学校高等部3年生	養護学校施設入所	児童養護施設入所	携帯ゲーム	不明	不明	-
登校は問題なく出来ている	利用している福祉用具	あるが利用していない福祉用具	長時間行うなど適切にはできない	不明	不明	-
利用している福祉用具	利用している福祉用具	あるが利用していない福祉用具	あれば利用したい福祉用具	住居の状況	その他の特筆すべき物的環境	住居の状況
物的環境	-	-	-	児童養護施設入所、実家は市外で両親が居住	美家は狭く家族が生活できる環境が整っていない	住居の状況
人的環境	家族の支援	友人との交流・支援	近隣との交流・支援	関係者との交流・支援	ボランティア等その他の人的交流・支援	住居の状況
社会的環境	両親は市外に居住、母精神疾患あり。妹が同施設に入所	学校や施設ではあまり交流せずおとなしい	不明	大人の支援者との関係は好んで作ろうとする	不明	住居の状況
療育C	療育C	あるが利用していない制度	利用している公私のサービス	あるが利用していない公私のサービス	あったら利用したい制度・サービス	住居の状況
(生活観)実現したい生活	(生活観)実現したい生活	(価値観)大事にしていること	児童養護施設入所中	-	-	-
両親との同居または両親の近くで生活したい	両親との同居または両親の近くで生活したい	不明	独自の生活習慣等	未解決の生活上の問題	その他の特記事項	その他の特記事項
本人	本人	私的関係者	医療関係者	保健関係者	福祉関係者	福祉関係者
-	-	-	-	-	-	-
児童養護施設、児童相談センター、養護学校、相談支援(4)、福祉課	児童養護施設、児童相談センター、養護学校、相談支援(4)、福祉課	児童養護施設、児童相談センター、養護学校、相談支援(4)、福祉課	児童養護施設、児童相談センター、養護学校、相談支援(4)、福祉課	児童養護施設、児童相談センター、養護学校、相談支援(4)、福祉課	児童養護施設、児童相談センター、養護学校、相談支援(4)、福祉課	児童養護施設、児童相談センター、養護学校、相談支援(4)、福祉課
会議開催の理由・背景	会議開催の理由・背景	会議開催の理由・背景	会議開催の理由・背景	会議開催の理由・背景	会議開催の理由・背景	会議開催の理由・背景
母の精神疾患や居住環境の問題から施設で生活しているが、養護学校卒業と同時に施設も退所となる。本人は単身生活は希望せず、グループホームなどの利用を考えているが、両親は市外にあり、今後の居住の場や就労などの進路について検討	母の精神疾患や居住環境の問題から施設で生活しているが、養護学校卒業と同時に施設も退所となる。本人は単身生活は希望せず、グループホームなどの利用を考えているが、両親は市外にあり、今後の居住の場や就労などの進路について検討	母の精神疾患や居住環境の問題から施設で生活しているが、養護学校卒業と同時に施設も退所となる。本人は単身生活は希望せず、グループホームなどの利用を考えているが、両親は市外にあり、今後の居住の場や就労などの進路について検討	母の精神疾患や居住環境の問題から施設で生活しているが、養護学校卒業と同時に施設も退所となる。本人は単身生活は希望せず、グループホームなどの利用を考えているが、両親は市外にあり、今後の居住の場や就労などの進路について検討	母の精神疾患や居住環境の問題から施設で生活しているが、養護学校卒業と同時に施設も退所となる。本人は単身生活は希望せず、グループホームなどの利用を考えているが、両親は市外にあり、今後の居住の場や就労などの進路について検討	母の精神疾患や居住環境の問題から施設で生活しているが、養護学校卒業と同時に施設も退所となる。本人は単身生活は希望せず、グループホームなどの利用を考えているが、両親は市外にあり、今後の居住の場や就労などの進路について検討	母の精神疾患や居住環境の問題から施設で生活しているが、養護学校卒業と同時に施設も退所となる。本人は単身生活は希望せず、グループホームなどの利用を考えているが、両親は市外にあり、今後の居住の場や就労などの進路について検討

表26 国際生活機能分類(ICF)を基にした現状分析表

性別: 男	年齢: 59	地域: 奥町	国籍等: 日本	IDNo.2211	平成22年7月5日現在
疾病1 慢性腎炎による腎機能障害	疾病2 精神発達遅滞疑	疾病3 -	外傷1 -	外傷2 外傷2	その他 泌尿器科通院
心身機能・身体構造	精神機能 判断能力がやや劣るため、日常的な支援が必要 知的障害疑い	運動機能 問題なし	視覚・聴覚 問題なし	その他 -	その他 -
活動	歩行	ADL 自立 基本的な生活習慣が身についている 自立 尿道に管を留置し時間排泄を行う	家事 食事は惣菜を購入し、米を炊くことができる 掃除は不十分 相談援助のできることも広がる可能性あり	職業能力 現在は無職 就労していた会社が倒産して以来無職	その他 毎日の散歩は日課 不明 その他
参加	一般就労・就学	福祉施設等の利用	趣味等 散歩 テレビ	地域活動 地域のゴミ当番は行っている	その他 -
環境	現在は無職	-	本人の希望があれば可能	不明	不明
環境因子	利用している福祉用具	あるが利用していない福祉用具	あれば利用したい福祉用具	住居の状況 一戸建て 同敷地内に叔父夫婦が住んでいる。	その他の特筆すべき物的環境 老朽化により取り壊し予定
背景因子	家族の支援 同敷地内に住む叔父夫婦が金銭の管理、入浴を援助	友人との交流・支援	近隣との交流・支援 挨拶をする程度の交流	関係者との交流・支援 民生委員が相談支援センターに連絡	ポランティア等その他の人的交流・支援 叔父夫婦が高齢で今後が心配
社会環境	利用している制度 身体3級	あるが利用していない制度	利用している公私のサービス	あるが利用していない公私のサービス	あったら利用したい制度・サービス
個人因子	(生活観)実現したい生活 叔父夫婦と離れて、支援を受けながら生活していきたい	(価値観)大事にしていること 不明	独自の生活習慣等 排泄はバケツの中にしていない	未解決の生活上の問題 健康状態の把握ができていない	その他の特記事項
本人	家族	私的関係者	医療関係者	保健関係者	福祉関係者
参加状況	参加	いとこ	医療機関SW	-	民生委員 社会福祉協議会 GH事業所 福祉課 相談支援
会議参加者	会議開催の理由・背景 会議開催による改善点及び残された課題と展望				
会議の検討結果	両親亡き後、叔父夫婦の援助を得ながら生活してきたが、夫婦とも高齢となられ、これまでの生活を継続していくことが困難となったため、今後の生活をどのように援助していくかについて検討。				
会議の結果	生活場面はGHを準備 金銭管理は成年後見制度を活用予定で、それまでの間は社協の日常生活自立支援事業を活用 通院は通院介助を申請 本人の健康状態を把握していく				

表27 国際生活機能分類(ICF)を基にした現状分析表

性別: 男		年齢: 51		地域: 葉栗		国籍等: 日本		IDNo.2212	
疾病1		疾病2		疾病3		外傷1		外傷2	
脳性麻痺		精神発達遅滞		-		-		その他	
生活機能	心身機能・身体構造	精神機能	運動機能	視覚・聴覚	その他	その他	その他	その他	その他
	重度知的障害あり、判断能力に遅れがある	左上下肢麻痺	問題なし	問題なし	その他	その他	その他	その他	
活動	歩行	ADL	家事	家事	職業能力	その他	その他	その他	
	可能だが支えが必要	ほぼ全介助	ヘルパーが行う	ヘルパーが行う	半年前まで作業所にて軽作業を行う	その他	その他	その他	
参加	可能だが介助が必要	一般就労・就学	福祉施設等の利用	趣味等	支援があれば軽作業は可能	その他	その他	その他	
	利用している福祉用具	生活介護事業所	生活介護事業所	不明	地域活動	その他	その他	その他	
環境因子	シャワーチェア・エアバスボード	利用している福祉用具	あるが利用していない福祉用具	あれば利用したい福祉用具	住居の状況	その他の特筆すべき物的環境	その他	その他	
	浴室の住宅改修	家族の支援	友人との交流・支援	近隣との交流・支援	関係者との交流・支援	関係者との交流・支援	その他	その他	
環境因子	高齢の父親と2人暮らし	父親が暴力を振るうことがある	生活介護事業所で他の利用者との交流	あり	福祉関係者との関係は良好	福祉関係者との関係は良好	その他	その他	
	利用している制度	利用している制度	あるが利用していない制度	利用している公私のサービス	あるが利用していない公私のサービス	あるが利用していない公私のサービス	その他	その他	
環境因子	身体3級、療育A	不明	不明	生活介護・身体介護・家事援助・短期入所	不明	不明	不明	不明	
	(生活観)実現したい生活	(生活観)実現したい生活	(価値観)大事にしていること	独自の生活習慣等	未解決の生活上の問題	未解決の生活上の問題	その他の特記事項	その他の特記事項	
環境因子	自宅で生活し続けたい	不明	不明	不明	父親が飲酒した際の本人への暴力行為	父親が飲酒した際の本人への暴力行為	その他	その他	
	本人	家族	私的関係者	医療関係者	保健関係者	保健関係者	福祉関係者	福祉関係者	
環境因子	父親	父親	父親の友人	-	-	-	福祉関係者	福祉関係者	
	本人	家族	私的関係者	医療関係者	保健関係者	保健関係者	福祉関係者	福祉関係者	
環境因子	本人	家族	私的関係者	医療関係者	保健関係者	保健関係者	福祉関係者	福祉関係者	
	本人	家族	私的関係者	医療関係者	保健関係者	保健関係者	福祉関係者	福祉関係者	
会議の検討事項・結果	会議開催の理由・背景								
会議の検討事項・結果	父親が本人に対して大声で怒鳴る、暴力を振るう場面が度々見受けられる。付近住民が心配し警察に通報したこともある。各関係機関の認識を共有し、今後の支援の方向を検討したい。								

表28 国際生活機能分類(ICF)を基にした現状分析表

性別: 男	年齢: 47	地域: 浅井	国籍等: 日本	IDNo.2213	平成22年7月12日現在	その他
疾病1	疾病2	疾病3	外傷1	外傷2	その他	精神科病院に入院中
精神発達遅滞	-	-	-	-	-	その他
心身機能・身体構造	精神機能 不安や不満が解消される まで訴えが続く 中度知的 障害あり	運動機能	視覚・聴覚	その他	吃音あり	不明
活動	歩行	ADL	家事	職業能力	その他	その他
実行状況(している)	単独で可能	自立	本人:たまにちよこつとや る。妹:全くできない	していない	不明	不明
能力(できる)	単独で可能	自立	支援者の声掛けが必要	声掛けがめんどろは軽作業は 可能、不安事有ると中断す る	不明	不明
参加	一般就労・就学	福祉施設等の利用	趣味等	地域活動	その他	その他
実行状況(している)	-	-	買物	-	不明	不明
能力(できる)	作業所の通所経験あり	-	必要なものでなく欲しい物 を購入	-	不明	不明
物的環境	利用している福祉用具	あるが利用していない福祉用具	あれば利用したい福祉用具	住居の状況	その他特記すべき物的環境	その他特記すべき物的環境
環境因子	家族の支援	友人との交流・支援	近隣との交流・支援	関係者との交流・支援	ボランティヤ等その他の人的交流・支援	ボランティヤ等その他の人的交流・支援
人的環境	妹が本人からの不安の電話 に対応している	友達は欲しいが、相手の気持 ちや状態を察する事ができな い	近所の人(人に)に話しかけれ るのが嫌	初対面でも拒否はない	-	-
社会環境	利用している制度	あるが利用していない制度	利用している公私のサービス	あるが利用していない公私のサービス	あつたら利用したい制度・サービス	あつたら利用したい制度・サービス
個人因子	療育B, 障害年金	療育B, 障害年金	居宅介護	未解決の生活上の問題	不明	不明
本人	(生活観)実現したい生活	(価値観)大事にしていること	独自の生活習慣等	不安や不満の解消方法の 獲得	その他の特記事項	その他の特記事項
参加状況	自宅に帰る事	不明	不安なことがあると妹に電 話する	保健関係者	福祉関係者	福祉関係者
本人	家族	私的関係者	精神科Dr.PSW、精神科予 イケア	会議開催による改善点及び残された課題と展望	生活介護、ケアホーム、相 談支援、福祉課	生活介護、ケアホーム、相 談支援、福祉課
本人	妹	会議開催の理由・背景	会議開催による改善点及び残された課題と展望	生活介護や短期入所の体験を通じて、本人が利用してもいいと思えるサービスを探す。日常生活の中で出てきた不安や不満を解消するための相談方法を、入院中に本人が身につけられるように支援していく。どこまでの状態になったら地域生活ができるかと判断するのが今後の課題。		
会議参加者	本人	妹	本人は「家に帰りたい」と望んでいるが、どのような生活を送りたいかのイメージは 全くない。退院後、独居の生活をどのように支えたいのか、妹に負担が掛りず ぎない支援方法を検討したい。			
会議の 検討事 項・結 果						

表29 国際生活機能分類(ICF)を基にした現状分析表

性別: 男	年齢: 19	国籍等: 日本	IDNo.2214	平成22年8月30日現在		
西萩原 地域:	疾病1	疾病2	疾病3	外傷1	外傷2	その他
重症心身障害	脳性麻痺	精神発達遅滞	精神発達遅滞	褥瘡		頻繁に閉塞呼吸が出現し、バギングが必要となる
心身機能・身体構造	精神機能 最重度知的障害あり、意思疎通困難	運動機能 四肢麻痺 体幹機能障害	運動機能 四肢麻痺 体幹機能障害	視覚・聴覚 問題なし	その他	その他
活動	歩行	ADL	ADL	家事	職業能力	その他
生活機能	実行状況(している)	不可能	全介助	家族が行う	入院中	不明
	能力(できる)	不可能	全介助	不可能	不可能	不明
参加	一般就労・就学	福祉施設等の利用	福祉施設等の利用	趣味等	地域活動	その他
	実行状況(している)	養護学校卒業後入院	短期入所	DVD鑑賞		不明
	能力(できる)	-	-	DVD鑑賞		不明
環境因子	利用している福祉用具 ベッド、オムツ、車椅子、座位保持装置、吸引器	あるが利用していない福祉用具	あるが利用していない福祉用具	あれば利用したい福祉用具	住居の状況	その他の特筆すべき物理的環境
	家族の支援 主に母が介護 父は不規則勤務	友人との交流・支援	友人との交流・支援	近隣との交流・支援	関係者との交流・支援	ボランティア等その他の人的交流・支援
	利用している制度 身体1級、療育A	あるが利用していない制度 日中活動系事業所 居宅介護	あるが利用していない制度 日中活動系事業所 居宅介護	訪問看護 移動入浴		あつたら利用したい制度・サービス
	(生活観)実現したい生活 自宅で家族と生活していきたい	価値観)大事にしていること 不明	(価値観)大事にしていること 不明	独自の生活習慣等 胃腸、痰吸引、呼吸管理などの医療的ケアの頻度が高い	未解決の生活上の問題 家族以外の人から十分な医療的ケアを受けられない	その他の特記事項
会議参加者	本人	私的関係者	私的関係者	医療関係者	保健関係者	福祉関係者
	-	母	-	医療機関SW 担当看護師 訪問看護	-	重神通園事業所 訪問入浴事業者 福祉課 相談支援
会議の検討事項・結果	会議開催の理由・背景 会議開催による改善点及び残された課題と展望 入院中に日中活動を体験し、本人にも事業所にも無理なく利用ができるように準備訪問介護、訪問入浴などを活用して家族の負担を軽減する。準備が整い次第退院の日程を決めていく。					





表31 国際生活機能分類(ICF)を基にした現状分析表

性別: 女		年齢: 65		地域: 浅井		国籍等: 日本		IDNo.2216	
疾病1		疾病2		疾病3		外傷1		外傷2	
僧帽弁狭窄症による心臓機能障害									循環器科 内科通院 その他
心身機能・身体構造	精神的に不安定になりやすい	精神機能	運動機能	視覚・聴覚	問題なし				その他
活動	杖を使用しゆっくり移動するが見守りが必要	歩行	ADL	家事	掃除・買い物はヘルパーが行う	職業能力			その他
参加	数センチの段差でもつまづき	一般就労・就学	福祉施設等の利用	趣味等	簡単なものは調理可能	不明			
環境	不明				福祉施設等	地域活動			その他
環境因子	利用している福祉用具	利用している福祉用具	福祉用具	不明	町内の行事には参加				
	介護保険にて住宅改修を実施予定	介護保険にて住宅改修を実施予定	介護保険にて住宅改修を実施予定	可	鑑賞する行事は参加でき				
	家族の支援	家族の支援	家族の支援	近隣との交流・支援	住居の状況				その他の特筆すべき物的環境
	同居 長女が名古屋市在住	同居 長女が名古屋市在住	同居 長女が名古屋市在住	友人との交流・支援	市営住宅				
	利用している制度	利用している制度	利用している制度	民生委員や近所の方との交流あり					
	身体1級 基礎年金2級 生活保護	身体1級 基礎年金2級 生活保護	身体1級 基礎年金2級 生活保護	利用している公私のサービス					
	(生活観)実現したい生活	(生活観)実現したい生活	(生活観)実現したい生活	通院介助					
個人因子	在宅での安定した生活	在宅での安定した生活	在宅での安定した生活	介護予防訪問介護					
本人	家族	家族	家族	独自の生活習慣等					
あり	私的関係者	私的関係者	私的関係者	未解決の生活上の問題					
				支援者に対して依存的で					
				ある					
会議の検討事項	介護保険への移行により、支援機関の引き継ぎとサービス提供機関との情報共有・支援方法について検討する	介護保険への移行により、支援機関の引き継ぎとサービス提供機関との情報共有・支援方法について検討する	介護保険への移行により、支援機関の引き継ぎとサービス提供機関との情報共有・支援方法について検討する	介護関係者					
結果	会議開催の理由・背景	会議開催の理由・背景	会議開催の理由・背景	訪問介護・居宅介護・福祉用具業者・包括支援センター・相談支援					
	会議開催による改善点及び残された課題と展望	会議開催による改善点及び残された課題と展望	会議開催による改善点及び残された課題と展望						

表32 国際生活機能分類(ICF)を基にした現状分析表

性別: 男		年齢: 26	地域: 千秋	国籍等: 日本		平成22年8月18日現在	IDNo.2217
疾病1		疾病2	疾病3	外傷1	外傷2	その他	
PKC(神経系の疾患)	精神発達遅滞	精神発達遅滞	-	-	-	神経内科通院	
心身機能・身体構造	精神機能 軽度知的障害あり。すぐ かっとなる	運動機能 問題なし	視覚・聴覚 問題なし	その他	その他	その他	
活動	歩行	ADL	家事	職業能力	職業能力	その他	
生活機能	可	自立	不明	不明	不明	家にずっといるのがいや	
参加	可	自立	手伝い約束してもできない	不明	不明		
環境	一般就労・就学	福祉施設等の利用	趣味等	地域活動	地域活動	その他	
背景因子	仕事したいが見つからない 豊田の下請け・老健など仕 事につくが長続きしない 利用している福祉用具	-	不明	不明	不明	不明	その他の特筆すべき物的環境
環境因子	家族の支援 実母からの虐待経験あり。継 母との折り合い悪く父は母の 見方	友人との交流・支援	近隣との交流・支援	関係者との交流・支援	関係者との交流・支援	不明	ポランティア等その他の人的交流・支援
社会環境	療育C (生活観)実現したい生活 グループホームで暮らした い	あるが利用していない制度 就労継続支援	利用している公私のサービス	あるが利用していない公私のサービス	あるが利用していない公私のサービス	不明	あつたら利用したい制度・サービス
個人因子	本人 参加	家族 私的関係者	医療関係者	保健関係者	保健関係者	福祉関係者	就労継続支援
会議参加者	本人 参加	家族 私的関係者	医療関係者	保健関係者	保健関係者	福祉関係者	就労継続支援
会議の 検討事 項・結 果	会議開催の理由・背景 本人の感情が不安定のため、精神科に定期的な通院を行い、カウンセリングを受 けてみる。それで問題行動が修まるかが課題。一般就労は難しいと思われるの で、就労継続の見学を行う。						



表34 国際生活機能分類(ICF)を基にした現状分析表

性別: 女	年齢: 51	地域: 旧尾西	国籍等: 日本	IDNo.2219	平成22年9月15日現在
健康状態	疾病1	疾病2	外傷1	外傷2	その他
精神発達遅滞					
心身機能・身体構造	精神機能 重度的知的障害 情緒は安定している	運動機能	視覚・聴覚	その他	その他
活動	歩行	ADL	家事	職業能力	その他
生活機能	可	自立	洗濯ものの片付け、皿洗いなどを行っている	就労継続支援利用	不明
	可	高齢の母の手伝いもある程度できる	不明	作業能力は高い	不明
参加	一般就労・就学	福祉施設等の利用	趣味等	地域活動	その他
	母と同じ職場で一般就労をしていた経験あり	就労継続支援事業	テレビ鑑賞	不明	不明
	支援があれば可能	就労継続支援事業継続	テレビ鑑賞	不明	不明
物的環境	利用している福祉用具	あるが利用していない福祉用具	あれば利用したい福祉用具	住居の状況	その他の特筆すべき物的環境
環境因子				市営住宅 母と二人で生活しているが、姉が入り込むことで問題が生じてきた	途中同居の姉より食事を取り上げられるなどの虐待を受けている
人的環境	家族の支援	友人との交流・支援	近隣との交流・支援	関係者との交流・支援	ボランティア等その他の人的交流・支援
	高齢の母は本者の援助がなければ生活できない 姉から虐待を受けている	事業所内で交流		母のケアマネのみ家に入りできている	
社会環境	利用している制度	あるが利用していない制度	利用している公私のサービス	あるが利用していない公私のサービス	あったら利用したい制度・サービス
	療育A				障害者虐待に対応できる制度
個人因子	(生活観)実現したい生活	(価値観)大事にしていること	独自の生活習慣等	未解決の生活上の問題	その他の特記事項
	日中は通所サービスを利用しながら母と生活したい	母と暮らすこと	不明	姉からの虐待に対処できない	
本人	家族	私的関係者	医療関係者	保健関係者	福祉関係者
参加状況					ケアマネ 生活介護事業所 福祉課 相談支援
会議の検討事項・結果	会議開催の理由・背景				
	長女からの虐待から、福祉サービスの利用を開始した。本者は、新しく行う取り組みや仲間との出会いに徐々に良い表情を見せてくれるようになってきたが、その後、新たに次女が家に入り込んできたことで、新たな虐待が始まった。現在、次女により福祉サービスの利用も止められている状況。今後の対応について関係者で協議を行う。				
	会議開催による改善点及び残された課題と展望				
	虐待からの救出方法を協議 母親の意向を確認後、本人と母の救出方法について再度関係者を招集し検討する。短期入所事業所の協力 地域包括支援センターの協力を要請				